

単元名 はをへを つかおう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 助詞の使い方を確かめながら、文を作ろうとする。

標準的な展開例

01010115_001

【教材名】 はをへを つかおう (上 P. 80～P. 81)

【準備等】 短冊黒板

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P. 80) の「わに」の唱歌をリズムに気を付けて読む。 ★「は」「を」「へ」を使った文を考えて書こう。 ○教師の範読を聞く。 ○教師の後に続いて読む。 ○いろいろな読み方で読む。 ・一斉に ・一行ずつ交代で ・一人で</p> <p>2 唱歌を視写する。 ○「わ」と「は」の使い方をつかむ。 ○教科書の文を視写する。 「わに は あらう。」 ○「お」と「を」の使い方をつかむ。 ○教科書の文を視写する。 「かお を あらう。」 ○「え」と「へ」の使い方をつかむ。 ○教科書の文を視写する。 「いえ へ かえる。」</p> <p>3 教科書 (P. 81) の文型に合わせて文作りをして、発表し合う。 ○教科書のわにの絵を見て、文を考える。 「わに は かお を あらう。」 「わに は いえ へ かえる。」 ○体験を基に、文を考えて書く。</p> <p>○作った文を発表し合う。</p>	<p>・「は」「を」「へ」について、発音と仮名遣いの違いを押さえる。</p> <p>・何度も声に出して読めるよう、読み方の工夫をする。 【評】唱歌を音読する活動を通して、楽しみながら読もうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・短冊黒板に「() は () 。」と書いて、文型を意識させる。</p> <p>・短冊黒板に「() を () 。」と書いて、文型を意識させる。</p> <p>・短冊黒板に「() へ () 。」と書いて、文型を意識させる。 【評】助詞を文や文章の中で使う活動を通して助詞の正しい使い方を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・短冊黒板に、「() は () を () 。」「() は () へ () 。」と書き、文型を意識させる。 ・帽子や本などの身の回りの小道具を使って、動作化しながら、文を考えさせる。 【評】文を作る活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】